

エリシャの活躍した時代にも飢饉がイスラエルを襲いました。飢饉は、アブラハムが妻サラを人身御供にしてしのがなければならなかった故事、族長ヤコブの家族が、エジプトに売られたヨセフのもとに、故国を捨て、身を寄せ、救われた故事、飢饉で逃れた地モアブから帰国したナオミとルツの物語など、イスラエルの人々の運命を左右してきた事態です。



干ばつで最大 35 万人が飢餓状態、マダガスカル(AFP)
栄養不良のため診断を受ける 5 歳児 (2015.3.15 撮影)

飢饉は長期にわたる冷害・旱魃・水害などの異常気象や害虫の異常発生、病害、また火山の噴火などによって起こりますが、戦争によって、土地が荒れ、働く人が失われるという時にも同じような事態が起きるのです。また、富の分配の不均衡が食糧不足を引き起こし、現在も内戦、疫病、貧困による飢餓の報道がなされています。そして弱い立場の人、幼い子どもが犠牲者となるのです。

エリシャの時代には長引く戦争により、飢饉に拍車がかかったと思われます。その時代も、飢饉の有様は信じられないほどひどいものです。

飢饉になれば野生の草の茎も根も食べようとします。有毒なものでも飢えのためには見境なくなります。エリシャはこの時も毒を無害にする方法をもって、仲間たちを助けています。(列下 4:38)

また、エリシャに捧げられた僅かなパン、穀物も、エリシャはそれを多くの人々に分け与えるように命じました。不可能だと躊躇した召使いが命じられたとおりに行った時、百人の人が食べ切れず、残したという奇跡も行っています。(列下 4:42)戦争になれば、さらに恐ろしい事態になります。

その後、アラムの王ベン・ハダドは全軍を召集し、攻め上って来て、サマリアを包囲した。サマリアは大飢饉に見舞われていたが、それに包囲が加わって、ろばの頭一つが銀八十シケル、鳩の糞四分の一カブが五シケルで売られるようになった。(列下 6:24)戦争による物不足が物価の異常な高騰を引き起こしているのです。さらに、ある女性が訴えていることは、地獄のような事態です。

彼女は言った。「この女がわたしに、『あなたの子供をください。今日その子を食べ、明日はわたしの子供を食べましょう』と言うので、わたしたちはわたしの子供を煮て食べました。しかしその翌日、わたしがこの女に、『あなたの子供をください。その子を食べましょう』と言いますと、この女は自分の子供を隠してしまったのです。」(列下6:28)子どもを売る、子どもを食べるという事態はこのように起こり得るのです。この事態に王はなすすべもなく、預言者であるエリシャを責め、エリシャを殺害しようとしています。エリシャは主に祈り、大胆にも、「上等の小麦粉1セアが1シケル、大麦2セアが1シケルで売られる」と正当な価格で取引されると告げさせます。その後、アラム軍には不思議な戦車の音、軍馬の音が聞こえてきて、イスラエルに援軍が来たものと怯え、天幕も、馬もロバも捨て、陣営をそのままにして逃げ去りました。そこで民は出ていってアラムの陣営で略奪をほしいままにし、エリシャが告げたように「上等の小麦粉1セアが1シケル、大麦2セアが1シケルで売られるようになった」(列下7:16)と記されています。略奪とは情けないものの、この状況では仕方がないでしょう。安全な食べ物、富の公平な分配、助け合うこと、そして不戦が、飢餓から逃れさせ、命を救っていくのです。

エレミヤは「お前たちが、同胞、隣人に解放を宣言せよというわたしの命令に従わなかったので、わたしはお前たちに解放を宣言する、と主は言われる。それは剣、疫病、飢饉に渡す解放である。わたしは、お前たちを世界のすべての国々の嫌悪の的とする。」(エレ34:17)と警告しています。